

原爆忌と意外な人物の献花

JJ1SXA/池

1945年8月6日午前8時15分広島に、続いて、8月9日午前11時02分に長崎に原爆が投下されました、8月のこの時期の広島・長崎で、核兵器無き社会を目指すとか核兵器反対と繰り返し、唯一の被爆国だと悲劇訴え、世界平和を訴え更に戦争反対が叫ばれます。

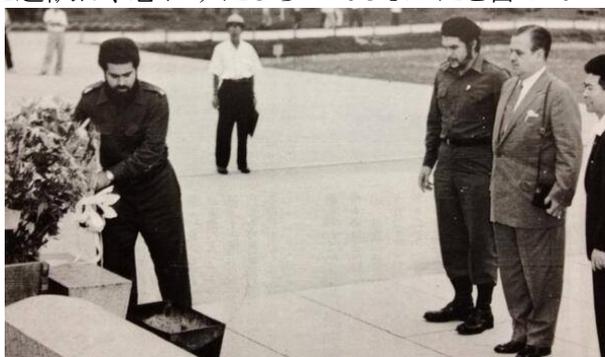
核の被害者なのに、このようなことは繰り返しませんとか二度と無いようにと訴えますが、核兵器所有国には何も行動を起こしていません、ただ訴えるだけは、何か犬の遠吠えのような…

バラク・オバマ(バラク・フセイン・オバマ2世)はご存じ、アメリカ合衆国の第44代大統領だが、任期中の2016年5月27日、広島平和記念公園を訪問し献花した、画期的出来事として大々的に報道されました、今また、バイデン現米大統領(ジョセフ・ロビネット・ジョー・バイデンJr)が長崎を訪問することで調整しているようだ。



これよりはるか昔の1959年7月に、あのチェ・ゲバラ(ルネスト・ラファエル・ゲバラ・デ・ラ・セルナ)が広島に献花のため訪れています、キューバ革命のわずか半年後、1959年7月25日に国立銀行総裁として、通商代表団を率いて日本を訪れていて、広島訪問の予定は無かったが、8月6日の原爆投下のあった日を目前にして、「ぜひとも献花したい」と突然言い出して、随行の武官(大尉)と、在日キューバ大使の2名だけを連れ、少人数で広島へ急行し献花したそうです。

この時、案内の通訳に「君達日本人は、アメリカにこれほど残虐な目にあわされて、腹が立たないのか」と云ったそうですが、この若き革命家に、純粋な子供のような目で素朴な疑問をぶつけられた通訳は、思わずたじろいってしまったと言っています。



(2022年12月記)